

# 序

埋蔵文化財調査センター長

五味 武臣

2002年度の5号に引き続き、センターの2003年度活動報告、センター職員の調査研究の成果、学外からの研究論文を内容とした「金沢大学文化財学研究」6号を刊行します。

当センターは1997年に、学内共同利用施設として発足しました。以来、全学のご協力、ご支援、ご理解をいただきながら金沢大学角間キャンパス（Ⅱ期移転用地）、宝町キャンパスの医学部や附属病院、鶴間キャンパス、東兼六養護学校などにおいて調査を実施してきました。各キャンパスでの発掘によって、古代から近世、近現代にわたる遺構・厩大な量の遺物（文化財）を得ましたが、未だ新たな発掘調査も宝町キャンパスで予定されています。

当センターの文化財調査はこの発掘調査をもって完了したわけではありません。今後、これら出土した文化財の復元・整理分類、実測図作成、写真撮影、原稿執筆など報告書作成と遺構・遺物の保存・活用方策をたてるといった重要な業務が残されています。この業務を鋭意遂行中ですが、近年の社会情勢の急激な変化によって、遺跡の現地保存が困難になり、やむを得ず記録保存とせざるを得なかったり、調査研究にあたるセンター教官の削減、運営経費の節減など厳しい状況下にあります。

本号には、センターが実施した発掘調査で出土した遺物のうち、宝町・鶴間・東兼六地区の江戸時代の陶磁器、とくに九谷焼に関する報告と、関連する研究論文を掲載いたしました。

本紀要が金沢大学における文化財に対する理解を深めるとともに地域に対する情報発信・地域貢献の一助となることを期待します。